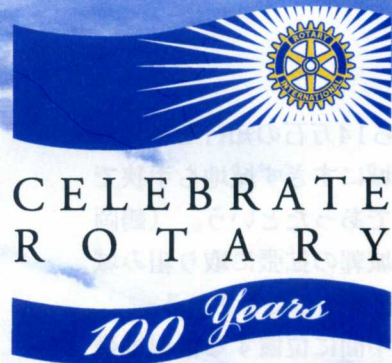




ロータリーを祝おう

2004-05年度 RI会長
グレン・エステス・シニア

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30
例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡
事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375



会長 斎藤 昭
幹事 佐藤 孝子

第2234回 例会会報 平成16年8月10日(火) 晴(本年度 第6回)

ゲストスピーチ①

海外在勤体験から

東北公益文科大学教授 高橋 英彦氏



私の職業人としての歳月の中で、心の中に最も強い印象を留めているのは、1970年代後半のイラク駐在と、90年代前半のインド勤務です。前者は企業人として、後者は国際公務員としての赴任でした。

今日は、この2つの体験の中から、いくつかの思い出を話させていただき、今日の世界動向の中で考えるところを、少々述べたいと思います。

1-1 石油危機時代の産油国ビジネス

ご記憶の方もありますが、それは私たちが売ろうとするものは買い手市場、買おうとするもの(つまり石油)は売り手市場でした。したがって、こちらの立場は弱いのです。そういう立場によって、激しい国際競争裡で進めるビジネスがどういふものか、ご想像いただけたと思います。産油国側からつきつけられる無理へんにげんこつ流の条件にどう立ち向かい利益を確保するか、あるいは、先方のふところに流入していくオイルマネーをどのように還流させ、かつ石油の安定供給を受け続けるのか、そんな命題と取組む日々でした。(若干の事例)

しかも、年の半分の、雨は一滴も降らない夏の日の摂氏45度の気候にあえぎつつ。

1-2 築かれた信頼関係

かかるビジネスの相手は、ほとんど相手国政府並びに政府機関の人びとですが、上記事情を背景に、なかなか難しい交渉ごとを積み重ねたり、受注したプロジェクトの実施においても、平坦ではない道を進むうち、たがいに人間としての親しみを増していき、さらに信頼関係が生まれます。(若干の事例)

とくに信頼関係の背後に来るものは、日本企業の技術力、日本人の勤勉さ、そして品質と納期の確かさであったと思います。

そのことは、もともと歴史的しがらみが薄い遙か東方の国ということもあいまって、日本・日本人への好感として少なくともイラクでは今も生きているように思えるのです。

1-3 人間どうし—あの親切な人たちは今

ところで、仕事を離れて接するイラクのホスピタリティ—思いやりについては、忘れられません。なにかずく、私の場合、趣味の写生を通してのお互い名も知らない民衆との出会いで経験した温かさは、思い出す度に、思わず微笑が浮かぶ程です。(若干の事例)。かねて独裁者のもとであえぎ、今また治安悪化の中にある、あの人びとに「ふつうの暮らしが戻る日の早いことを、願わずにはられません。

2-1 誇り高い官僚たち

人口において世界2位であるインドは、1位の中国とともに、古代からの世界に冠たる高い文明を誇る国であり、これも中国同様に、「人口大国」から「経済大国」への道を歩みは始めている国です。

私の仕事相手は、インド行政職(IASオフィサー)と呼ばれる、いわゆるキャリア官僚で、これは英国統治時代の伝統をひく、まことに誇り高い「自己主張の強烈」な人びとでした。私の任務は、国連における担当分野において、彼らを説得し、彼らと協力してインドの人びとのために役立つ施策を実施してもらうことでしたが、それは容易ではありませんでした。インドにおける仕事、それもお役所相手の仕事の困難さについて少しお話ししましょう。(事例)

出席は クラブの活力	本日 の 出席	会員数	47人	前々 回の 出席	出席率	69.77%
		出席数	29人		修正出席数	36人
		出席率	67.44%		確定出席数	83.72%

しかし、私は決してインドのことも、インド人も嫌いになりませんでした。なんとも魅力ある風土と人なのです。

2-2 奥ゆき深い人びと

ここでも信頼関係の構築こそが大切であったことは、申すまでもありません。あわせて、インド人という、あの奥ゆき深く、なんとも温かい人びとについて、懐かしい人びとの中から何人かあげてみます。閣僚のような、いわゆるエライ人の中にも、市井の人びとの中にも、忘れられない人がいます。

3-3 インドの旅、辺境の戦場について

インドは、ユネスコの世界文化遺産の数においてはアジアで1位だそうです。多様な文化がぎっしりつまった亜大陸の旅について語れば、とてつもない時間を要します。

今日は、方向を変えて、第2次世界大戦における日本のインパール作戦の舞台となったインド北東諸州を訪ねた旅のひとつまだけお話ししましょう。

そこでは、英連邦軍戦死者の手入れのいきとどいた墓地で合掌し、戦場であった丘ではほとんど追憶するものすら残されていない日本の将兵を想って頭をたれました。そして、激戦地コヒマにほど近い山上の村では、日本兵の思い出を語る古老との出会いがありました。

インドや周辺国での仕事を支えたものは、私たちの使命感と、さきに述べた仕事相手の人たちとの信頼関係であったと思います。そして辺境の旅では、両軍の将兵にはるばると幾山河を越えさせ、多数が散った戦争と、今日の平和について考えさせられました。

会 長 報 告

斎 藤 昭

◇鶴ヶ岡城に思いを◇

庄内平野の真ん中に位置する緑濃い城下町鶴岡は古くは大宝寺と呼ばれ、武藤氏の居城が大宝寺城であった。（南北朝争乱時代の創建と考えられる）天文年間に至り武藤氏が居城を尾浦城（大山）に移すと支城となった。天正16年（1588）になると越後の上杉景勝に攻められ、その支配下となり直江兼続によって修築工事が施されたという。関ヶ原の合戦のち庄内地方は最上義光の所領に加えられ、風光明媚なこの城を隠居城にすべく城代新関因幡氏の手により再修築がなされた。慶長8年（1603）最上義光は酒田の亀ヶ崎城に対して鶴ヶ岡城と改名。この近世城郭としての輪郭式縄張の祖型ができたが建物は萱葺きの粗末なものであった。

元和8年（1622）に最上氏が改易されると譜代大

名の酒井忠勝が信州松代から14万石の知行を与えられて入城した。最上氏の支城にすぎず城地も手狭で本丸の居館も粗末な萱葺きであったという。（鶴岡昔雑談）酒井氏はただちに城郭の拡張に取り組み城下町の完成には50年の歳月を費やしたとされる。

平城で内川と青竜寺川の間位置する低湿地帯に築かれていた。城郭は本丸、二の丸、三の丸によって構成され二の丸の北方には七ツ蔵と称される曲輪が構えられている。各曲輪は土塁と広い水堀で守られていたが石垣の構築は櫓台や虎口の主要部に限られていた。本丸の中ノ門を撮影した古写真には重要な城内や多聞櫓とともに切り込みハギの石垣が写っていた。

鶴ヶ岡城の天守は建てられなかったが本丸に亥櫓、二の丸に辰巳櫓という二重櫓が建てられたほか、本丸の塁上には一部二階造りの多聞櫓も建ち並んだ。城門も堅固な構造のものが多く二の丸の東に開けられた大手門の虎口前方には馬出が構えられていた。酒井氏は幕府終焉まで鶴ヶ岡城を居城としていた。明治維新に際して会津松平氏とともに官軍の攻撃目標とされ、城内建物は明治8年に破却された。

今は藩校致道館、武家屋敷長屋門、公園のお堀等僅かに当時の面影が偲ばれる。

委 員 会 報 告

出席委員会

委員長 本間昭吉君

○7月100%以上出席者

300% 1名 藤川享胤君

225% 2名 斎藤 昭君 佐藤孝子君

200% 2名 本間喜美子君 加藤 功君

175% 2名 真島吉也君 富樫松夫君

150% 7名 秦君 丸山君 御橋君 三浦君
佐藤（友）君 田中君 若生君

125% 12名 秋野君 阿蘇君 樋渡君 石田君
本間（昭）君 加藤（恒）君 加藤（賢）君

嶺岸君 白幡君 須田君 高橋（良）君 富田君
100% 6名 迎田君 松浦君 中溝君 塚原君
佐々木君 上野君

○メイクアップされた方

加藤（賢）君 三浦君 中溝君 佐々木君 白幡君
若生君

○ビジター

荻山紘一君（鶴岡東ロータリークラブ）

スマイル 

佐藤孝子君 高橋先生有難うございました。

塚原初男君 血糖値検査の結果再飲酒OKでした。